

第10回 教育委員会 会議録

- 1 開催日時 令和7年10月16日(木) 午前10時25分
- 2 開催場所 大町市役所 庁議室
- 3 出席委員 教 育 長 中 村 一 郎
同 職 務 代 理 者 下 川 清 志
委 員 森 し の ぶ
委 員 北 澤 明 美
委 員 奥 原 圭 永
- 4 説明のため出席した者
教 育 次 長 太 田 三 博
兼山岳博物館館長
教 育 参 事 坂 井 征 洋
兼生涯学習課長
学 校 教 育 課 長 飯 島 秀 美
ス ポ ー ツ 課 長
兼国民スポーツ大会準備室長
学 校 教 育 指 導 主 事 吉 澤 清
学 校 教 育 指 導 主 事 山 岸 澄 雄
学 校 教 育 課 学 校 再 編 係 長 渡 邊 哲 也
- 5 事務局 学校教育課庶務係長 平 林 晃
- 6 傍聴者 一 名

中村教育長：皆さんお揃いになりましたので、これより第10回教育委員会の方を始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

先ほどは今度新しく開校します北部小学校の工事現場の方を見ていただきましてありがとうございます。自分もこれで2回見させていただきましたので、いい学校になっていているなということを思っています。

会議録の承認の方をまたお願いいたします。

では最初に教育長の報告ということでお願いいたします。

教育長報告 資料により説明

中村教育長：何か質問等ありましたらお願いいたします。

奥原教育委員：通級指導の人数が増えてきて、指導の限界が見えてきているという話がありましたが、この子供をどのようにするのかという基準というのは、学校ごとになっているのですか。

中村教育長：いえ、県からどういうお子さんが対象で、こういう方が通級指導教室の対象ですというものがあります。

ただそのお子さんを通級指導教室に行かせるかどうかという判断は、学校と担当者が面談を繰り返し、また観察をしながら、本当に対象かどうかというところを見極めて、話をしていくといった形です。

奥原教育委員：基準はあるけれども、具体的にどうするのかということは、それぞれのところでやるという感じということですね。

中村教育長：そうです。何か数値がある訳でもありませんので、やはり実際、観察をしていって、決めていかなければならない部分がとても多くありますので。

奥原教育委員：あともう1点、先ほどの北部小学校を見せていただいた感想とか、今の特別支援の今後どういうように、その子供を新しい学校でスタートしていくかとかいう話がありましたけど、やはり新しい教員の配置というのが、本当にすごいポイントになると思っております。ご検討いただいているとは、十分理解しておりますが、引き続き、早く、スムーズな展開ができるようお願いいたします。

中村教育長：校長とも話していますが、校長先生方の考えとしては、やはり今現在、実際に4小学校にいる先生方をできるだけ新校の方でも引き続き見ていただけるような体制、特に1年目はそんなことは考えています。

ただ、人事に関しては、それぞれの教員の要望等も聞かなければいけないので、それがすべてうまくいくかどうかということは、定かではないです。

あと、学習支援員も、今それぞれの学校にいますが、これも人数的には、今の状態は確保したいのですが、学校側としては、このお子さんには、この支援の先生がつくことで、安定した学校生活を送れているので、できるだけその先生をまたその新しい学校の方に繋げていきたいという願いがあったりしますので、そこは校長先生方で調整しながら、配置の方を考えているという現状であります。

ただ、今自分が思っているのは、特に小学校の場合、そうやって一人一人に支援するという形での対応なのですが、それというのは、どう考えても限界は絶対に来るので、不登校のお子さんへの支援もそうですが、1人に対して1人がつくという発想でいくと、もうパンク状態になるのは目に見えてますので、その辺の今後の指導のあり方とか、先生方の意識もそうだと思うのですが、自分が言ったのもやはり、みんなでみんなを見ていくという考え方というものが大事ではないかということは、校長先生方に話しました。

他に何かありますか。

〔質問、意見なし〕

中村教育長：よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは報告事項の方にいきたいと思います。

(1) 空調設備改修工事に伴う山岳博物館の臨時休館についてということであります。

太田教育次長：空調設備改修工事に伴う山岳博物館の臨時休館について 資料により説明

中村教育長：この件に関して、ご質問等ございますか。

〔質問、意見なし〕

中村教育長：それでは協議事項の方に移りたいと思います。

では最初に、大町の特別支援教育の現状ということで、お願いします。

吉澤学校教育指導主事：(1) 大町市の特別支援教育の現状について 資料により説明

中村教育長：ありがとうございました。

何かご質問、またご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

森教育委員：今の吉澤先生の報告と、先ほどの中村教育長のお話をお聞きして思いましたが、特性のあるお子さんたちが増えて、何か先生たちに負担がかかっている印象を受けております。

特性のあるお子さん達への理解というのが、周りの保護者や子供たちに働きかけができたらいいなということを思います。

先ほど教育長が、みんなで全員を見ていくというようなことをおっしゃってましたけど、当事者のお子さんの生きづらさを周りのみんなが理解するという、そんな働きかけとということができたらいいなということを思いました。

吉澤学校教育指導主事：学びの教室の担当者が、各学校で研修会を開いて、全職員の理解を深めるということを行ってきております。

保護者向けというところは、なかなか難しいのですが、そういった学級があるということとをきちんとお知らせをしながら、対応していくことが大事かなというふうに思いますし、保護者の方によって、心配の度合いが違うというところがあったり、ここで人数が増えてきているということもあるので、正しく学級について理解をしていただくということを進めていかなければいけないかなというふうに思います。

児童生徒については、学校の中で共同学習もありますので、その中で理解を深めていくというのは学校の責務であると思いますので、その点はまたお願いをしていきたいと思えます。

中村教育長：このお子さんたちもみんな、学校が終われば、社会に出て自分の仕事をして自分で生活をしていかなければいけない。やはりそういう力をつけてあげなければいけないというふうに思います。

今年、下川専門員に入ってください、保育園、幼稚園、それと学校の先生方、また保護者とも様々な話しをしてくださっているものですから、この就学相談についても、だいぶ整理されてきていて、今までは単に心配だからという理由で相談に上がってきたものが、本当にその子の学びの場をどうしたらいいかという、そういう視点での検討がだいぶ進んできているのではないかと思います。

あとは、学校の方にも、また引き続きいろいろな形で先生方の研修の場を作っていくということが必要なというふうに思っております。

他に何かございましたらお願いいたします。

〔質問、意見なし〕

中村教育長：ありがとうございました。

それでは（２）小学校の再編についてということをお願いいたします。

渡邊学校再編係長：（２）小学校の再編について 資料により説明

中村教育長：ただいま、新しい学校の新しい校歌、２校それぞれ完成したとの報告と、３月に閉校する４校の校歌をみんなで歌って、最後に感謝の気持ちを込められたらということで、このようなイベントも考えていきたいと思っております。

自分もこの閉校に関わってきて、やはり４校が一気に閉校というのは、大町市にとってはとても本当に大きいことだろうなということ、日に日に感じてきています。

そして、その４校の閉校と同時に、そこから新しい２校をこれからスタートさせて作っていく。またこれも本当に大きなことであって、その１つの切り換えをしていく場になっていければということ、自分としては頭の中で少しイメージしております。

大町の市民の方がそれぞれの４校に対して、様々な思い出があり、その中で校歌というのはやはり、とても心に残っている部分が大きいのかなと思いますので、今回、このような企画で、ぜひ市民の方にも新しい学校への期待また思いを持っていただければということ、を思っています。

再編についての説明がございましたが、何かご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

北澤教育委員：新しい校歌ができ上がって、歌詞を見せていただくと、とてもこの先が楽しみな雰囲気といいますか、そのような気分になれる、すてきな校歌を作っていただいたなと思います。メッセージの中でも、やはりこの地に来て、この地を見ていただいて、それぞれの学校を見ていただいた結果の校歌で、すごくいい校歌ができて、よかったと感じました。

中村教育長：ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

森教育委員：とてもいい企画だと思います。

一つお聞きしたいのですが、新小学校の校歌を披露するときは、北部小学校、南部小学校の児童がステージに上がって、校歌を歌うのでしょうか。

渡邊学校再編係長：はい。おっしゃる通りでして、東西南北それぞれの児童の皆さん、お集まりいただいて歌っていただきますので、その中から北部小に行かれるお子さんは、北部小の校歌を、南部小に行かれる方は、南部小の校歌を歌っていただくということで、東小だけ、北部の子、南部の子と別れるような感じになろうかと思っております。

そのような形で、歌っていただきたいということで考えてございます。

中村教育長：学校が主体でやる訳ではないので、多くのお子さんに手挙げていただいて、参加していただければ、嬉しいと思っています。あと、自分もいろいろと話していると、例えば「おっさんの会」というのが活発に活動していて、そこでも合唱を持っているのですが、自分たちも歌えるなら歌ってみたいという声もあるので、そういう方たちにも、声をかけて、一緒に歌っていただいてもいいのかなということは思っています。

渡邊さん、新しい校歌の曲は、聞くことはできるのですか。

渡邊学校再編係長：完成品としていただいたのが譜面のみでして、中核教員の宮沢先生を通じて、東小が拠点でいらっしゃるものですから、ちょっと東小を通じて、東小はおそらく両方の校歌を練習するような形になるかと思しますので、中核教員の先生から、音楽の先生を通じて、もし音楽の先生で両方のピアノ伴奏を弾いていただいたらその音源データをいただけないかということで打診をしているところです。

もしそういったものができ上がりましたらまたこういった場とかでご披露できる機会を提供していきたいと思えます。

中村教育長：他にはいかがでしょうか。

森教育委員：スクールバスの試乗会のことをお聞きしたいんですけど、野口コースの募集が12組というのはどういう理由なのか教えてください。

渡邊学校再編係長：野口コースのみ、12組とした理由でございますが、野口コースは、当初こちらで見込んでいる人数が、30人弱ということで、中型バスでの運行が可能ということで見込んでいるところでございます。

それに合わせたルート設定をした関係で、大型バスでは通れないルートを通る予定としてございます。

つきましては、そこのルートのみ中型バスでのスクールバスの試乗会の予定であり、乗車定員に限りがあることから、野口コースのみ、12組とさせていただいたところでございます。

中村教育長：よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ではその他で、山岸先生の方からお願いします。

山岸学校指導主事：（3）その他

上半期不登校等長期欠席児童生徒の状況について 資料により説明

中村教育長：ありがとうございました。

ただいま山岸先生の方から、上半期の不登校等長期欠席児童生徒の状況について、ご説明をいただきましたが、何か皆さんから質問またご意見等ありましたらお願いいたします。

奥原教育委員：資料2ページで登校ができた日の子供の居場所というのは、これはどのような基準で決めているのか、教えていただきたいと思います。

山岸学校指導主事：これは、各学校から教育委員会に上げていただくのですが、その学校での不登校のお子さんの状況に応じて、一番多い部分についての人数として挙げていただいと捉えています。

奥原教育委員：どこにいるかというのは、子供の希望なのか、保護者とか、そういう話で教室にいるとか、他の場所にいるとか、そういうのは、子供が選択できるということなのでしょうか。

山岸学校指導主事：子供が選択できます。

先ほど説明したように、例えば学校への登校実績がないというのは、出欠席からここにあげていただいておりますし、学校に滞在してる時間の多くを、所属学級で過ごしている中学生がおりますが、それはその子の様子を登校日数のうちの多く過ごしてるところにあげていただいております。

奥原教育委員：その期間はすべて出席扱いになってるのですか。

山岸学校指導主事：出席扱いになってます。

中村教育長：選択してるのは多分、ほとんど子供が自分で決めてると思います。

学校も話を聞いて、決めてるのではないかなと思います。

中には支援会議を行い、保護者を交えた中で、学校に来たときはどうしますかということも検討してる中での、居場所になってると思います。

こうなさいというのは、学校では、そういう形での指導はしていないと思われます。

下川教育長職務代理者：居場所が広がっていて、それをうまく使ってそういう場所で安心して生活できている。保護者の方とか、子供たちもちろんですけど、そういう選択できる居場所もあるという。それぞれこういう特徴があって、こういう形で先輩は生活してるとか、そういうことを特に保護者の方に向けて発信するとか、そういったところも必要になってきているのかなと思っています。

中学校で大町中ができて新しい学校になった影響というのが、不登校の数とかいったところで、影響があったのかどうか、分析してる部分があれば教えていただきたい。

山岸学校指導主事：2点についてお答えします。

まず1点目、スクリーニング会議、いわゆるSSWと家庭児童相談員、ケースワーカーと私とで訪問しているのですが、その折に、スクリーニングで上がってくるお子さん一人ひとりについて、いつ誰が何をやるかということをやっている中に、例えばアルプス家、フリースクールのアルピオン、ポレポレ野の花、キッズウィルなどそういう関係機関に、繋いだらどうですかという提案をします。

支援会議の中で、それを保護者に下ろしていく形でやっていくのですが、それによって昨日アルプスの家に来た一人も、そこを選んで、居場所としています。

2点目、大町中の件は、これは私と教育長、吉澤先生とこの前話をした中で、学校づくりが進んできた3年目で、授業づくりが非常に好転してきています。

今年はそれに加えて関係づくりで、大中カフェという生徒同士が語り合う、北小カフェみたいな感じで、関係づくりをベースに、授業づくりもというところを加味したことが好転してきていて、全体的にこの30日以上欠席が減ってます。

ですのやはり学校づくりが進んできたことは、そういうところにも関係してくるのかなというところはすごく思っています。

あわせて、先生方もスクリーニングを本当によくやっていただいて、早め早めに捉えようとしてるのは本当に大町中の担任の先生に感謝なんです、学校に足が向かないお子さんも、本当に教頭先生はじめ、声をかけ人につなぎ、何とか居場所の改善を図ろうということ動いています。これは随時待たずして動いてるというのは事実で、これも1つの要因になってるのかなということは、思っています。

中村教育長：令和5年にすごく人数が多くなったのですが、これは大町中再編の影響があったと思います。この3年目の上半期を見たときに、今年度、不登校という範疇に入るお子さんは0です。それは今までの大町中ではなかったことです。ということは、新しく不登校になる子がどんどん減っている、これは最終的には、全体的にも今後落ちていく可能性はあるかなと思います。

やはり一番は、僕は授業だと思います。授業が子供たちにとって、楽しいというのは大きいと思います。学校生活の殆どが授業ですので、その授業の中で、子供たちの関係づくりや先生との関係、いろいろなものが含まれてるのが授業だと思いますので、それが学校として、しっかり機能して行われているというのは、今、大町中がこうやって、だんだん不登校、長期欠席の数が、落ち着いてきている1つの大きな要因ではないかなということは思っています。

あと大町市の特徴で、アルプスの家を核にして、フリースクールのアルピオン、ポレポレ野の花、キッズウィルなど、みんなが今、連携がだいぶ取れて共同体制が取れるようになってきています。アルピオンに所属しながらもアルプスの家の授業とか、午後の運動に参加するとか、そういうことが普通に今行われるようになってきております。

これはすごくいいことで、要は大町市全体で、その1人の子供たちにみんな関わっていかうというものが出来つつあるのかなと思いますので、これはぜひ進めていきたいし、アルプスの家で行っているイベント活動も、そこに市民の方たちや学校の先生以外の人たちがみんな、寄ってたかってきて、一緒にいろいろなことをしているということが、この子供たちのキャリア教育に繋がってくるなと思っています。

ただ、大町市でかけてる部分としたら、デジタルを使った部分での、そういう子供たちへの学習支援の部分だと思います。

そんなところも、もう少し進んでいくと、やはり人との関係は苦手だけど、将来のことを考えたら自分で勉強したいという子は、クロムブックなどを使って勉強がどんどんできるとか、そういう仕組みも作っていくようにしていかないと、いろいろな子に対応する、その居場所作りにはならないのかなということは思っています。

北澤教育委員：全欠席のお子さんが中学校で2名いる訳なんですけど、多分、学校の先生たちはいろいろな関わりを持とうと、努力はされていると思うのですが、このままいってしまくとキャリア教育の方に繋いでも、社会の中に出ていくとかそういうことがなく、家居になってしまう心配がすごくあると思います。

全体的には不登校の傾向が少しずつ良くなっているというのはわかるんですが、この2名のお子さんたちに関して、何とか支援とか、考えていることがあったら教えていただければと思うのですが。

山岸学校指導主事：昨年度ひきこもりで、途中から全欠したお子さんについて、やはり進路も大事だということで、関係者で進めました。経済的な部分もあったのですが、そのお子さんについては、通信制ですが、週一のスクリーニングを楽しみに、喜んで通うことができるようになりました。お母さんも勤めに出られるようになって、環境が変わったことによって、その家庭については好転したと思います。

今年、私が取り組んでる中、1名について先日のスクリーニングで進路に係わるので、進路資料とかも、渡すのですが、兄弟関係で、小学校と繋がりのある先生がいますので、その先生を核に、母親への支援ということで、管理職がお茶会を催して一緒に飲んだりとか、前期後期の教員が連携してということを進めています。ただ、北澤委員のおっしゃった、家居がとても心配で、いわゆるその兄弟関係の構造が壊れない限りは、そうなってしまうのではないかとという予測もあるので、保健師さんにも繋がって、支援をしていくということで進めています。

私1人とかではなく家庭児童相談員やSSWの方も関係してくるので、チームでというのはよく言われるのですが、地域の方も含め大勢の人の力を借りながらということも、先日話題になりました。

学校運営協議会の方でのお力添えも今後必要になるかと思えますし、そうするとコーディネーターさんのお力も必要になるかもしれないと考えております。

何とかこの場所を家から変える中で、1歩外へ目が向いていければいいなと思っています。

中村教育長：自分もいろいろなケースを見てきて、どんな細かい糸でもいいので、その家庭や本人と繋がり続けるということが、やはり大事なのかなということは思っています。

本当に細かい糸でも繋がっていることで、何かのきっかけで、事が好転する場合は、今までもあったりしたので、やはりそのところは大事にしていかなければいけないというのは思います。

対面してる場面では、衝突もったり、いろいろとあるかもしれませんが、でも何らかの形で係わりを持ち続けること、それはやはり、周りでできることはそのぐらいしかないのかなというのが、そのためにもやはりチームというか、みんなが関わっていかないと、それは実現できないと思います。1人がそれを担っていくと、限界がどうしても来てしまうだろうなと思います。

北澤教育委員：子供さんもですけど、その保護者の方の意識が変わってかないと、なかなか動いてかないのかなと思います。ありがとうございました。

中村教育長：他にはよろしいでしょうか。

[質問、意見なし]

中村教育長：ありがとうございました。

協議事項の方も、以上でありますので、どうもありがとうございました。

それでは連絡事項の方に移りたいと思いますが、お願いいたします。

平林庶務係長：連絡事項 資料により説明

中村教育長：朝早くからありがとうございました。

では以上をもちまして第10回教育委員会の方を閉じたいと思います。

《午後11時40分 終了》